

# 巻頭言

善光寺住職 黒田博志

本年もご縁の皆さまのお力添えのおかげで無事に過ごす事が出来ました。ありがとうございます。

巷では『平成最後の……』と形容される言葉が多く聞かれます。来年五月にはいよいよ改元となります。平成の二十年間を振り返る報道も多く見聞致しますが、皆さまは昭和の最後の年、何処で何をなさっていたでしょうか？ 私はまだ中学生でした。野球部で白球を追う毎日。寺に生まれ十歳で仏弟子となる得度式をしたものの未だ将来は漠然としておりました。

十年ごとに振り返ってみますと、平成十年は永平寺での修行の日々を過ごし、平成二十年は師父を亡くし善光寺の住職として無我夢中で過ごしておりました。平成三十年の今年も相変わらず目の前の務めに追われる日々です。

私たちが過去を振り返る時、『あの頃は幸せだった』とか『あの頃は辛かった』など様々な感情も甦ります。時には現実を受け入れられずに『あの頃に戻りたい』などという時もあるでしょう。「世は皆無常なり」とお釈迦さまは説かれます。世の中の在り様も変化していますし、家族の形や自分自身も変化をしていきます。

昨年から開催している御詠歌教室。そこでお唱えした御和讃の中に、

星はめぐりて時うつり くらしのすべは変われども

かわらぬ教え今もなお 人に示してあらたなり

（『高祖道元禅師学道御和讃』）

と、道元禅師の教えを詠います。

変わらぬ教えとは何か。お釈迦さまは、

過去を追うな。未来を願うな。

過去は過ぎ去ったものであり、

未来はまだ到っていない。

今なすべきことを努力してなせ。

と、『今、ここ』を大事にしなさいと示されます。

『今』は、過去を含み、未来を孕んだ『今』です。過去は自らが歩んできた道であり、自分を支えている多くの縁から成り立っています。

未来は『今、ここ』をどう過すかによって変化していきます。大事なのは『今、ここ』です。

私たちはそれぞれ他者と比較することのない人生を生きています。そして人生

は決して思い通りにならないものでもあります。

師父はよく「人生に良し悪しはない。置かれているその場所で精一杯のことをすればそれで良いのだ」と申しております。私もただ『今、ここ』を成すべきことを日々精進して参ります。

〈宗祖を通して釈尊に還る〉

この師父の理念を基に開創された善光寺は来年五十周年を迎えます。

開創以来永きに亘り善光寺の理念、師父の誓願と実践力に共鳴し、お寺をお支え下さった多くの檀信徒やご縁の皆さま。そして不肖、私が後を継いでからもお力添えを頂いた多くの方々のおかげで『今』があります。その『今』を更に未来につないでいくために皆さまと共に歩んで参ります。

今後共御指導・御支援の程宜しくお願い申し上げます。